

## 2021年度以降入学生対象

授業科目	食品機能学 Food Functional Science				担当教員	松川 典子			
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・前期				選択・必修	選択			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
		○		◎				○	
授業目的	近年、食品は3つの機能性から評価され、とくに生理機能については、健康維持・増進、疾病の予防・症状の改善を目的とした食品成分の活用、あるいは食品開発などの側面から注目されている。本講義では、生理機能に関与する食品成分について、その効果、作用機序を教授し、管理栄養士に求められる食品の生理機能に関する知識の修得、その種の情報を適切に判断するための能力を最新エビデンスに基づき身につける。								
到達目標	1. 機能性食品に対する行政上の位置づけ、法的規制、表示等を説明できる。 2. 生理機能を発揮する食品成分の種類、作用のメカニズムを説明できる。 3. 新たな開発が進む様々な機能性食品を科学的に説明できる。								
テキスト	青柳康夫「食品機能学」(建帛社) ※その他、配布プリント								
参考書									
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準						
	試験	80	目標の到達状況を宿題型のレポート(20%)と、講義最終回に実施するまとめの試験(80%)によって評価する。						
	レポート	20							
	小テスト								
	提出物								
その他									
履修上の留意事項	関連科目(基礎栄養学、臨床栄養学等)の内容を復習した上で授業に臨むこと。各授業の前後に1~2時間の復習を要する。								
実務経験を活かした教育内容									
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容						
	1	学習の主題	食品機能学						
		授業内容	食品機能学の講義概論、ガイダンス						
		事前・事後学習	食べ物の成り立ち・食品科学を復習しておくこと。シラバスを読んでおくこと。						
	2	学習の主題	機能性食品						
		授業内容	保健機能食品の制度、対象食品について						
		事前・事後学習	テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。						
	3	学習の主題	抗酸化性機能成分						
		授業内容	活性酸素、抗酸化メカニズム、抗酸化を有する食品について						
		事前・事後学習	テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。						
	4	学習の主題	消化吸収促進と代謝改善機能						
		授業内容	消化吸収メカニズム、ミネラル吸収機能食品・代謝改善機能食品について						
		事前・事後学習	テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。						
	5	学習の主題	特定保健用食品						
		授業内容	特定保健用食品の制度、対象食品について						
		事前・事後学習	テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。						
	6	学習の主題	難消化、吸収阻害および微生物活性機能						
		授業内容	難消化成分と生体、微生物活性機能、食物繊維機能食品について						
事前・事後学習		テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。							

回数 (担当)	項目	内容
7	学習の主題	脂質関連代謝機能①
	授業内容	n-系脂肪酸と n-3 脂肪酸について
	事前・事後学習	テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。
8	学習の主題	脂質関連代謝機能②
	授業内容	ジアシルグリセロール、中鎖脂肪酸、コレステロールについて
	事前・事後学習	テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。
9	学習の主題	酵素阻害、酵素活性化機能①
	授業内容	高血圧、酵素阻害機能性食品について
	事前・事後学習	テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。
10	学習の主題	酵素阻害、酵素活性化機能②
	授業内容	消化関連酵素阻害と糖尿病について
	事前・事後学習	テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと
11	学習の主題	免疫系におよぼす機能
	授業内容	免疫機能を活性化する食品成分、食物アレルギーについて
	事前・事後学習	テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと
12	学習の主題	神経系におよぼす機能
	授業内容	神経系に影響を与える機能性成分について
	事前・事後学習	テキストを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと
13	学習の主題	時間栄養学
	授業内容	時間栄養学とは、生活リズムとタイミングについて
	事前・事後学習	配布プリントを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。
14	学習の主題	抗加齢医学
	授業内容	抗加齢医学とは、アンチエイジング食品にすいて
	事前・事後学習	配布プリントを読んでおくこと。スライドを活用し、まとめておくこと。
15	学習の主題	アレルギー起因食品・試験
	授業内容	アレルギー起因食材、表示制度について、全体のまとめ
	事前・事後学習	配布プリントを読んでおくこと。14 回目までの内容を復習しておくこと。

学習の主題・  
授業内容

2021年度以降入学生対象

授業科目	管理栄養士総合演習 Practical Seminar of Registered Dietetics		担当教員	坂本 恵、荒川 義人、岡本 智子、千葉 仁志、千葉 昌樹、濱岡 直裕、百々瀬 いづみ、山部 秀子、金高 有里、槌本 浩司、松川 典子、氏家 志乃、津久井 隆行、渡辺 いつみ				
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年		選択・必修	必修				
授業形態	演習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎	◎	◎	○	○
授業目的	専門教育科目の学修を通し、4年間で修得してきた管理栄養士に必要な基礎教育科目と専門教育科目の関連性を理解したうえで、食と健康に関する問題点や疑問点を明確にし、修得した各科目を横断的かつ総合的に判断し、問題解決する能力を身につける。また、4年間の成果の総仕上げと位置づけ、修得した知識と技術を統合し、管理栄養士として社会で活躍できる実践力を再確認し、補足する。							
到達目標	1. 専門基礎科目・専門科目における学修目標を習得している。 2. 各科目を横断して、問題解決できる総合的な能力を身につけている。 3. 卒業後の置かれた立場で、管理栄養士として、職務を実践できる基礎的な知識と技術を身につけている。 4. 管理栄養士国家試験合格のための総合力を修得する。							
テキスト	資料を配布する。							
参考書								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準					
	試験		到達状況を小テストおよび取り組み姿勢により総合的に評価する。 模擬試験、補講等を実施するので必ず出席すること。 その他：取り組み姿勢					
	レポート							
	小テスト	70						
	提出物							
その他	30							
履修上の留意事項	管理栄養士の国家試験の対策として重要な科目である。必ず出席し努力を継続して実力アップをはかること。模擬試験などの成績は変動するが、点数より努力を継続することが国家試験合格の道となる。補講等は必ず受講する事が基本事項である。臨地実習や就活などで欠席する場合は必ずその旨を教員に連絡すること。進捗状況等により補講内容等の順序が変更になることがある。							
実務経験を活かした教育内容								
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容					
	1 (坂本)	学習の主題	ガイダンス					
		授業内容	管理栄養士総合演習について					
		事前・事後学習	事前：管理栄養士国家試験について予習する (1時間)。事後：授業内容を復習し勉強法について計画を立てる (1時間)。					
	2 (松川)	学習の主題	管理栄養士に必要な基礎的な知識について					
		授業内容	管理栄養士の仕事と国家試験のための知識の関連について 専門科目の知識の確認と補講 (基礎栄養学)					
		事前・事後学習	事前：基礎栄養学を国家試験過去問題で予習する (1時間)。事後：授業内容を復習する (1時間)。					
	3 (千葉仁)	学習の主題	専門基礎科目の知識の確認					
		授業内容	専門基礎科目の補講 (人体の構造と機能及び疾病の成り立ち)					
		事前・事後学習	事前：人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを国家試験過去問題で予習する (1時間)。事後：授業内容を復習する (1時間)。					
	4 (金高)	学習の主題	専門基礎科目の知識の確認					
		授業内容	専門基礎科目の補講 (人体の構造と機能及び疾病の成り立ち)					
事前・事後学習		事前：人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを国家試験過去問題で予習する (1時間)。事後：授業内容を復習する (1時間)。						

回数 (担当)	項目	内容
5 (津久井)	学習の主題	専門科目の知識の確認
	授業内容	専門基礎科目の補講（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち）
	事前・事後学習	事前：人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを国家試験過去問題で予習する（1時間）。事後：授業内容を復習する（1時間）。
6 (荒川)	学習の主題	専門科目の知識の確認
	授業内容	専門基礎科目の補講（食べ物と健康）
	事前・事後学習	事前：食べ物と健康を国家試験過去問題で予習する（1時間）。事後：授業内容を復習する（1時間）。
7 (濱岡)	学習の主題	専門基礎科目の知識の確認
	授業内容	専門基礎科目の補講（食べ物と健康）
	事前・事後学習	事前：食べ物と健康を国家試験過去問題で予習する（1時間）。事後：授業内容を復習する（1時間）。
8 (岡本) (氏家)	学習の主題	専門科目の知識の確認
	授業内容	専門科目の補講（臨床栄養学）
	事前・事後学習	事前：臨床栄養学を国家試験過去問題で予習する（1時間）。事後：授業内容を復習する（1時間）。
9 (千葉昌) (百々瀬)	学習の主題	専門科目の知識の確認
	授業内容	専門科目の補講（応用栄養学、栄養教育論）
	事前・事後学習	事前：応用栄養学、栄養教育論を国家試験過去問題で予習する（1時間）。事後：授業内容を復習する（1時間）。
10 (槌本)	学習の主題	専門科目の知識の確認
	授業内容	専門科目の補講（公衆栄養学）
	事前・事後学習	事前：公衆栄養学を国家試験過去問題で予習する（1時間）。事後：授業内容を復習する（1時間）。
11 (濱岡)	学習の主題	専門基礎科目の知識の確認
	授業内容	専門基礎科目の補講（社会環境と健康）
	事前・事後学習	事前：社会環境と健康を国家試験過去問題で予習する（1時間）。事後：授業内容を復習する（1時間）。
12 (山部) (渡辺)	学習の主題	専門科目の知識の確認
	授業内容	専門科目の補講（給食経営管理論）
	事前・事後学習	事前：給食経営管理論を国家試験過去問題で予習する（1時間）。事後：授業内容を復習する（1時間）。
13 (岡本) (氏家)	学習の主題	専門科目の知識の確認
	授業内容	専門科目の補講（臨床栄養学）
	事前・事後学習	事前：臨床栄養学について学んできたことを整理しまとめる（1時間）。事後：授業内容を復習する（1時間）。
14 (山部) (渡辺)	学習の主題	専門科目の知識の確認
	授業内容	専門科目の補講（給食経営管理論）
	事前・事後学習	事前：給食経営管理論について学んできたことを整理しまとめる（1時間）。事後：授業内容を復習する（1時間）。
15 (槌本)	学習の主題	専門科目の知識の確認
	授業内容	専門科目の補講（公衆栄養学）
	事前・事後学習	事前：公衆栄養学について学んできたことを整理しまとめる（1時間）。事後：授業内容を復習する（1時間）。

学習の主題・  
授業内容

2021 年度以降入学生対象

授業科目	臨床栄養学Ⅳ Clinical Nutrition Ⅳ			担当教員	岡本 智子			
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・前期			選択・必修	必修			
授業形態	講義			単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎		○	
授業目的	内分泌疾患、電解質異常、がん、手術、周産期患者の管理、クリティカルケア、摂食機能の障害、身体・知的障害、乳幼児・小児疾患、妊産婦・授乳婦の疾患、老年症候群等の疾患等について病態別栄養ケア・マネジメント（栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画、実施、評価、フィードバック）の方法を修得する。栄養管理計画作成に必要な情報収集と理由、情報にもとづく栄養評価、栄養診断、栄養ケア計画の作成とその根拠、モニタリング、評価・計画の作成について学修する。さらに、チーム医療における管理栄養士の役割（実践症例の栄養評価及び栄養計画の作成・マネジメント）、他専門職との連携等について具体的に理解を深める。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床栄養学Ⅱ、Ⅲにあげた到達目標を達成したうえで、さらに今回学修した疾患について知識を積み上げて修得している。</li> <li>2. がんの化学療法と栄養管理の問題点、解決法等を考えることができる。</li> <li>3. 高齢者の栄養管理における問題点と解決法等を考えることができる</li> <li>4. 妊娠期・周産期の栄養管理と問題点、解決等を考えることができる。</li> <li>5. クリティカルケアにおける栄養管理について説明できる。</li> <li>6. 食物アレルギーを理解し、具体的な食事の管理について説明できる</li> </ol>							
テキスト	上原晋志夫外 第4版 最新臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 光生館							
参考書								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 課題レポート：50% 小テスト：30% その他：20% 授業態度で評価する					
	レポート	50						
	小テスト	30						
	提出物							
その他	20							
履修上の留意事項	各授業の前後にそれぞれに2時間の予習・復習を要する。興味を持って、積極的に授業に参加してほしい。							
実務経験を活かした教育内容	高度な栄養管理が必要な疾患を臨床の現場をイメージさせながら、症例をもとに講義を進め、また具体的な栄養ケアが実践できるように課題を出しながら、技術やスキルを身につけていくように授業を進めていく							
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容					
	1	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (1)					
		授業内容	臨床栄養学Ⅲの振り返り、この授業の目的、授業の流れ、次回までの課題の実践方法、レポート提出について					
		事前・事後学習	シラバス、教科書を確認して授業の準備をする (2時間)。授業の内容をまとめ、復習する (2時間)					
	2	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (2)					
		授業内容	内分泌疾患 (甲状腺・副甲状腺・副腎)					
		事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)					
	3	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (3)					
		授業内容	Ⅰ型糖尿病、小児糖尿病					
		事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)					
	4	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (4)					
		授業内容	小児の疾患における栄養管理 先天性代謝異常					
		事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)					

回数 (担当)	項目	内容
5	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (5)
	授業内容	妊産婦の疾患：妊娠高血圧、妊娠糖尿病
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
6	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (6)
	授業内容	症候・症状の原因、鑑別法と栄養障害の評価 (フィジカルアセスメント)
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
7	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (7)
	授業内容	肝臓・膵臓疾患 代償期・非代償期の栄養管理
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
8	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (8)
	授業内容	がんの栄養管理：化学療法、放射線療法、悪液質
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
9	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (9)
	授業内容	がんの栄養管理とチーム医療 (緩和ケアチーム)
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
10	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (10)
	授業内容	高齢者の栄養管理 1：ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイルティ、認知症、骨粗しょう症
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
11	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (11)
	授業内容	高齢者の栄養管理とチーム医療
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
12	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (12)
	授業内容	周術期における栄養管理 電解質異常、アシドーシス・アルカローシス
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
13	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (13)
	授業内容	クリティカルケア：ICU・CCUにおける栄養管理とチーム医療
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
14	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (14)
	授業内容	摂食機能障害、身体・知的障害 口蓋裂・顎裂
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
15	学習の主題	疾患・病態別栄養管理 (15)
	授業内容	食物アレルギー
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)

学習の主題・  
授業内容

2021 年度以降入学生対象

授業科目	臨床栄養学実習Ⅲ Clinical Nutrition Practicum III		担当教員	岡本 智子				
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	実習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎		◎	○
授業目的	提示された合併症を伴う複雑な困難症例について、栄養ケア計画の作成に必要な情報を整理し、栄養アセスメントを行う。栄養アセスメントの総合評価として徴候・症状等の基礎データを整理し、プロブレムリスト作成する。それらをふまえて栄養ケア計画を作成するとともに、モニタリング、評価・計画の作成、チーム医療における栄養管理の展開と手順について実習を通して理解する。提示された症例についての栄養ケア計画から評価、チーム医療における展開について、プレゼンテーションを行う。発表後はグループディスカッションによって、臨床現場における実践力、応用力を養う。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養ケアプロセスが理解できる基本的な疾患症例について栄養アセスメント、栄養ケア計画の作成することができる。</li> <li>2. 基本的な疾患症例や合併症を伴う疾患、また病態の変化にあわせた栄養障害疾患症例を対象にについて栄養アセスメント・栄養診断、栄養ケア計画作成し、モニタリング・評価が実施できる。</li> <li>3. 対象者の QOL を考慮し、栄養ケア計画作成と栄養、食事療法を実践すべき献立の評価を行なうことができる。</li> <li>4. 提示症例の栄養評価、ケア計画をチーム医療の場で根拠に基づいて説明することができる。</li> <li>5. 提示症例について、口頭及びポスターなどで症例報告のプレゼンテーションができる。</li> </ol>							
テキスト	なし							
参考書	栄養管理プロセス 国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル 日本栄養士会 上原登志夫外 第4版 最新臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 光生館 臨床栄養学 栄養ケアプロセス演習－傷病者個々人の栄養ケアプラン作成の考え方－							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 課題レポート 50% その他：発表 50%で評価する。					
	レポート	50						
	小テスト							
	提出物							
その他	50							
履修上の留意事項	各授業の前後にそれぞれに2時間の予習・復習を要する。興味を持って、積極的に授業に参加してほしい。							
実務経験を活かした教育内容	修得した栄養管理の知識や技術が、実際の臨床の現場で具体的にどのように活用され、活かされているのか、その結果として栄養サポートを受けた患者の状態がどのように変化していくのか、疾患ごとに症例を踏まえ、臨床現場をイメージさせながら授業を進める							
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容					
	1	学習の主題	ガイダンス 授業の目的					
		授業内容	職業倫理 守秘義務 栄養ケア・マネジメントについて					
		事前・事後学習	シラバス、テキストを確認して授業の準備をする (2 時間)。授業の内容をまとめ、復習する (2 時間)					
	2	学習の主題	栄養ケアプロセス (栄養アセスメント、栄養診断、評価、モニタリング)					
		授業内容	病棟に行く準備 栄養評価 患者への説明など					
		事前・事後学習	事前：配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)					
	3	学習の主題	糖尿病と栄養管理 (1)					
		授業内容	長期コントロール不良糖尿病患者の栄養食事指導 1					
事前・事後学習		事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)						

回数 (担当)	項目	内容
4	学習の主題	糖尿病と栄養管理 (2)
	授業内容	長期コントロール不良糖尿病患者の栄養食事指導 2 プレゼンテーション
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
5	学習の主題	糖尿病と栄養管理 (3)
	授業内容	長期コントロール不良糖尿病患者の栄養食事指導 3 評価とディスカッション
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
6	学習の主題	消化器術後栄養管理 (1)
	授業内容	胃がん切除後における栄養管理 ①
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
7	学習の主題	消化器術後の栄養管理 (2)
	授業内容	胃がん切除における栄養管理 ②プレゼンテーション ディスカッション
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
8	学習の主題	低栄養と栄養管理 (1)
	授業内容	低栄養 (PEM)：褥瘡併発症例の栄養管理 1
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
9	学習の主題	低栄養と栄養管理 (2)
	授業内容	低栄養 (PEM)：褥瘡併発症例の栄養管理 2 プレゼンテーション
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
10	学習の主題	低栄養と栄養管理 (3)
	授業内容	低栄養 (PEM)：褥瘡併発症例の栄養管理 3 評価とディスカッション
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
11	学習の主題	肝硬変症と栄養管理 (1)
	授業内容	低栄養：肝硬変症例の栄養管理 ①
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
12	学習の主題	肝硬変症と栄養管理 (2)
	授業内容	低栄養：肝硬変症例の栄養管理 ②のまとめとプレゼンテーション
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
13	学習の主題	肝硬変症と栄養管理 (3)
	授業内容	低栄養：肝硬変症例の栄養管理 ③評価とディスカッション
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
14	学習の主題	栄養投与方法
	授業内容	栄養投与方法の確認：濃厚流動・輸液の実際 (シミュレーター、ポンプ、輸液セット)
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)
15	学習の主題	栄養投与方法
	授業内容	栄養投与方法の確認：濃厚流動・輸液の実際 (シミュレーター、ポンプ、輸液セット)
	事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)

学習の主題・  
授業内容

2021 年度以降入学生対象

授業科目	栄養サポートチーム論 Theory of Nutrition Support Team				担当教員	岡本 智子、氏家 志乃、 看護学科教員			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・後期				選択・必修	選択			
授業形態	演習				単位数	1単位			
学科ディプロマ ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	○		◎	○	
授業目的	栄養サポートチーム(NST)の活動現場を知り、チーム医療連携における専門職としての基本的な知識、技術、態度を学ぶ。								
到達目標	NST活動におけるチーム医療連携の意義を説明できる。 NSTのケアを必要とする対象者に対して管理栄養士として栄養ケアプロセスに則り、栄養アセスメント、栄養計画立案、評価を行うことができる。また診療録(栄養ケア記録)が書けるようになる。 チームとして機能するために、他職種とのコミュニケーションの重要性を理解する。 課題にむけて専門職種間で連携するための役割を理解し行動に結び付けることができる。								
テキスト	(仮) 栄養ケアプロセス 演習書 同文書院								
参考書	上原 誉志夫 外 第4版 最新臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 光生館(臨床栄養学IVで使用)								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準						
	試験		到達目標の達成度をレポート、課題内容(提出物)で評価する。 レポート:20% 提出物:70% その他:授業態度10%						
	レポート	20							
	小テスト								
	提出物	70							
その他	10								
履修上の 留意事項	具体的症例の提示と多職種での検討								
実務経験を 活かした教育内 容	実務経験をもとに具体的事例を示しながら理解を深める。								
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容						
	1	学習の主題	チーム医療の理解について I						
		授業内容	ガイダンス。チーム医療とは何か。チーム医療の中での管理栄養士の役割を知る						
		事前・事後学習	事前にシラバスを読んでおく。						
	2	学習の主題	チーム医療の理解について II						
		授業内容	専門職が共労することの意義を考える。チーム医療に関わる診療報酬について。						
		事前・事後学習	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)						
	3	学習の主題	症例①に基づく栄養管理を学ぶ						
		授業内容	グループで困難症例に対する栄養評価と栄養診断、栄養ケア計画を立案し、症例をまとめる。						
		事前・事後学習	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめ、課題に取り組む(2時間)						
	4	学習の主題	症例①に基づく栄養管理を学ぶ						
		授業内容	栄養ケアの記録(診療録への記載をまとめる)						
		事前・事後学習	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)						
	5	学習の主題	症例①に基づく栄養管理を学ぶ						
		授業内容	グループで症例①の栄養管理の一連の流れを発表する。教員よりアドバイスをもらう						
事前・事後学習		前回からの課題を行う(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)							

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	6	学習の主題	症例①に基づく栄養管理を学ぶ
		授業内容	グループで困難症例に対する栄養評価と栄養診断、栄養ケア計画を立案し、症例をまとめる。
		事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめ、課題に取り組む（2時間）
	7	学習の主題	症例①に基づく栄養管理を学ぶ
		授業内容	栄養ケアの記録（診療録への記載をまとめる）
		事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）
	8	学習の主題	症例①に基づく栄養管理を学ぶ
		授業内容	グループで症例①の栄養管理の一連の流れを発表する。教員よりアドバイスをもらう
		事前・事後学習	前回からの課題を行う（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）

2021年度以降入学生対象

授業科目	地域栄養活動演習 Community Nutritional Program Practicum		担当教員	槌本 浩司				
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・前期		選択・必修	選択				
授業形態	演習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		○		◎		
授業目的	地域栄養活動の基本は、地域に住む全ての人々の健康・生活の質向上という目的をもって、地域の活動体を組織し、健康の保持・増進に他職種と連携して取り組むことである。地域栄養活動における各種サービスやプログラムの調整、社会資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理の仕組みについて、実際の事例をもとに学修する。また、札幌市等の公表データをもとに、アセスメント、課題抽出、目標設定、媒体作成、模擬活動等を通して実践力を身につける。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>健康増進プログラムの対象・目的を理解している。</li> <li>集団の食事評価についての方法を説明できる。</li> <li>地域、職場等における食生活改善プログラムを作成できる。</li> <li>統計的なデータをもとに、集団を評価することができる。</li> <li>プレゼンテーション力を身につけている。</li> </ol>							
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>加島浩子、森脇弘子編「ウエルネス公衆栄養学」(医歯薬出版)</li> <li>他にテーマごとにプリントを配布する。</li> </ol>							
参考書	特定非営利活動法人 日本栄養改善学会 監修「食事調査マニュアル」(南山堂) ※その他、開講時に掲示する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準					
	試験		目標の到達状況をレポート、提出物、その他で評価する。 その他：課題、活動に取り組む姿勢 20% 活動報告発表 (内容含む) 20%					
	レポート	30						
	小テスト							
	提出物	30						
その他	40							
履修上の留意事項	実践的な学修であり学外の方々に接する機会等がある、社会人としての基本的姿勢、礼儀をもって対応することは勿論、十分に事前学修、知識の整理をしておく必要がある。活動報告等に要する授業時間の割り振りは履修者数により変動することがある。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域における健康栄養マネジメント全般の内容を演習に織り交ぜながら、地域栄養活動の実践について理解しやすいように授業を行います。							
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容					
	1	学習の主題	ガイダンス					
		授業内容	地域栄養活動とは					
		事前・事後学習	事前に配付プリントを読み、疑問点等を明確にしておくこと。(0.5時間) 事後は講義内容を整理し、ノート整理をしておくこと。また、授業中に提示した先行研究の論文や、関連する論文を検索し学修しておくこと。(0.5時間)					
	2	学習の主題	地域における健康・栄養活動①					
		授業内容	活動の実践と展開の方法について					
		事前・事後学習	事前に配付プリントを読み、疑問点等を明確にしておくこと。(0.5時間) 事後は講義内容を整理し、ノート整理をしておくこと。また、授業中に提示した先行研究の論文や、関連する論文を検索し学修しておくこと。(0.5時間)					
	3	学習の主題	地域における健康・栄養活動②					
		授業内容	活動の目的、地域の診断について、情報の収集について					
		事前・事後学習	事前に配付プリントを読み、疑問点等を明確にしておくこと。(0.5時間) 事後は講義内容を整理し、ノート整理をしておくこと。また、授業中に提示した先行研究の論文や、関連する論文を検索し学修しておくこと。(0.5時間)					

回数 (担当)	項目	内容
4	学習の主題	参考資料等からデータを読む①
	授業内容	札幌市等の公表資料などから必要なデータを読みとる
	事前・事後学習	事前に配付プリントを読み、疑問点等を明確にしておくこと。(0.5時間) 事後は講義内容を整理し、ノート整理をしておくこと。また、授業中に提示した先行研究の論文や、関連する論文を検索し学修しておくこと。(0.5時間)
5	学習の主題	参考資料等からデータを読む②
	授業内容	公表データを例に、データの読み方、扱い方について学ぶ
	事前・事後学習	事前に配付プリントを読み、疑問点等を明確にしておくこと。(0.5時間) 事後は講義内容を整理し、ノート整理をしておくこと。また、授業中に提示した先行研究の論文や、関連する論文を検索し学修しておくこと。(0.5時間)
6	学習の主題	地域栄養活動、事業計画案作成事前準備について
	授業内容	対象、課題、グループ等の決定について
	事前・事後学習	事前に配付プリントを読み、疑問点等を明確にしておくこと。(0.5時間) 事後は講義内容を整理し、ノート整理をしておくこと。また、授業中に提示した先行研究の論文や、関連する論文を検索し学修しておくこと。(0.5時間)
7	学習の主題	地域栄養活動、事業計画案作成
	授業内容	事業計画プログラム(調査、アセスメント、評価アンケート)等の作成
	事前・事後学習	事前に配付プリントを読み、疑問点等を明確にしておくこと。(0.5時間) 事後は講義内容を整理し、ノート整理をしておくこと。また、授業中に提示した先行研究の論文や、関連する論文を検索し学修しておくこと。(0.5時間)
8	学習の主題	地域栄養活動演習①
	授業内容	事業プログラムの実践
	事前・事後学習	事前に配付プリントを読み、疑問点等を明確にしておくこと。(0.5時間) 事後は講義内容を整理し、ノート整理をしておくこと。また、授業中に提示した先行研究の論文や、関連する論文を検索し学修しておくこと。(0.5時間)
9	学習の主題	地域栄養活動演習②
	授業内容	事業プログラムの実践、結果のまとめ
	事前・事後学習	事前に配付プリントを読み、疑問点等を明確にしておくこと。(0.5時間) 事後は講義内容を整理し、ノート整理をしておくこと。また、授業中に提示した先行研究の論文や、関連する論文を検索し学修しておくこと。(0.5時間)
10	学習の主題	発表資料、配布資料作成
	授業内容	地域における活動をまとめ、報告書作成、発表資料作成
	事前・事後学習	事前に配付プリントを読み、疑問点等を明確にしておくこと。(0.5時間) 事後は講義内容を整理し、ノート整理をしておくこと。また、授業中に提示した先行研究の論文や、関連する論文を検索し学修しておくこと。(0.5時間)
11	学習の主題	活動報告①
	授業内容	地域栄養活動についてのグループ発表
	事前・事後学習	事前に配付プリントを読み、疑問点等を明確にしておくこと。(0.5時間) 事後は講義内容を整理し、ノート整理をしておくこと。また、授業中に提示した先行研究の論文や、関連する論文を検索し学修しておくこと。(0.5時間)
12	学習の主題	活動報告②
	授業内容	地域栄養活動についてのグループ発表
	事前・事後学習	事前に配付プリントを読み、疑問点等を明確にしておくこと。(0.5時間) 事後は講義内容を整理し、ノート整理をしておくこと。また、授業中に提示した先行研究の論文や、関連する論文を検索し学修しておくこと。(0.5時間)
13	学習の主題	活動報告③
	授業内容	地域栄養活動についてのグループ発表
	事前・事後学習	事前に配付プリントを読み、疑問点等を明確にしておくこと。(0.5時間) 事後は講義内容を整理し、ノート整理をしておくこと。また、授業中に提示した先行研究の論文や、関連する論文を検索し学修しておくこと。(0.5時間)

学習の主題・  
授業内容

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	14	学習の主題	活動報告④
		授業内容	地域栄養活動についてのグループ発表
		事前・事後学習	事前に配付プリントを読み、疑問点等を明確にしておくこと。(0.5時間) 事後は講義内容を整理し、ノート整理をしておくこと。また、授業中に提示した先行研究の論文や、関連する論文を検索し学修しておくこと。(0.5時間)
	15	学習の主題	まとめ
		授業内容	活動報告についての総評、地域活動の課題について
		事前・事後学習	事前に配付プリントを読み、疑問点等を明確にしておくこと。(0.5時間) 事後は講義内容を整理し、ノート整理をしておくこと。また、授業中に提示した先行研究の論文や、関連する論文を検索し学修しておくこと。(0.5時間)

## 2021年度以降入学生対象

授業科目	総合演習Ⅱ Practical Seminar of Nutrition II			担当教員	百々瀬 いつみ、荒川 義人、岡本 智子、坂本 恵、千葉 仁志、千葉 昌樹、濱岡 直裕、山部 秀子、金高 有里、槌本 浩司、松川 典子、氏家 志乃、津久井 隆行、渡辺 いつみ			
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・前期			選択・必修	必修			
授業形態	演習			単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○	○	○	○	○	◎	◎
授業目的	卒業にあたり、各専門分野を横断して、専門分野で修得した基礎知識や技術に加え、臨地実習を通して実践的に修得した知識・技術、管理栄養士としての役割の理解をふまえて、グループワークで課題に取り組み、知識・技術を統合し、応用・活用して課題解決を図るとともに、この過程を通してコミュニケーション能力、お互いの知識・技術の交換や役割分担等、基礎的能力に加えてさらに各自が管理栄養士としての能力を高めることを目的とする。複数の教員の指導により各専門分野の知識を統合して演習形式で学修を進める。							
到達目標	管理栄養士として活動できる基礎的な能力に加えて活用・応用できる能力が身についている。							
テキスト	資料を配布する。							
参考書								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準					
	試験		分野ごとの配点割合は以下のとおり、 フードサイエンス分野20%、栄養疫学分野15%、栄養教育分野20% 臨床栄養分野25%、地域栄養分野20%					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	100	目標の達成状況を分野ごとに、下記の視点から評価する。 ・提出物：分野ごとに課題に沿った資料作成を課す。 (レポート・プレゼンテーション資料等) ・その他：授業時の発表、取り組み姿勢を評価する。					
その他								
履修上の留意事項	1. 各分野の苦手、理解不足などを解消するために事前に自習して、積極的にとりくむこと。 2. 目標を共有し、メンバーが役割を分担しチームワークで成果を出すように考えることが必要です。							
実務経験を活かした教育内容								
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容					
	1 (百々瀬) (坂本) (松川)	学習の主題	ガイダンス、フードサイエンスⅠ					
		授業内容	総合演習の概要					
		事前・事後学習	事前・事後学習に各1時間ほど要する					
	2・3 (津久井) (金高) (荒川)	学習の主題	フードサイエンスⅡ					
		授業内容	食品機能開発について 健康増進・疾病予防と食品の機能					
		事前・事後学習	事前・事後学習に各1時間ほど要する					
	4・5 (槌本) (濱岡) (山部) (渡辺)	学習の主題	栄養疫学					
		授業内容	データの収集、管理、応用について EBMにもとづいた評価、治療について、具体的なデータの扱い方					
		事前・事後学習	事前・事後学習に各1時間ほど要する					
	6~8 (百々瀬) (千葉(仁)) (千葉(昌)) (氏家)	学習の主題	栄養教育					
		授業内容	ライフステージと栄養教育 根拠にもとづいた栄養教育の実施、事例研究					
事前・事後学習		事前・事後学習に各1時間ほど要する						

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	9～12 (岡本) (氏家) (千葉(仁)) (山部) (渡辺)	学習の主題	臨床栄養学
		授業内容	疾患・病態別栄養ケア・マネジメント 根拠にもとづいた栄養管理 事例研究 NST の実践、末期患者、高齢者、障害者等の栄養管理
		事前・事後学習	事前・事後学習に各 1 時間ほど要する
	13～15 (千葉(昌)) (坂本) (百々瀬) (槌本)	学習の主題	地域社会における栄養活動
		授業内容	地域社会における栄養活動 根拠にもとづいた地域の評価、栄養活動
		事前・事後学習	事前・事後学習に各 1 時間ほど要する

## 2021年度以降入学生対象

授業科目	卒業研究 Graduation Study			担当教員	坂本 恵、荒川 義人、岡本 智子、 千葉 仁志、千葉 昌樹、濱岡 直裕 百々瀬 いづみ、山部 秀子、金高 有里、 槌本 浩司、松川 典子、津久井 隆行、 渡辺 いつみ			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・通年			選択・必修	選択			
授業形態	演習			単位数	2単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○		◎				○
授業目的	管理栄養士としての専門分野において修得した知識等を総合的に活用し、研究課題を設定、研究計画作成、資料の収集、実験や資料の分析、報告書の作成、ディスカッションなどを繰り返しながら、最終的な成果を発表するとともに論文を作成する。社会で求められる専門職業人としての研究能力を修得する。							
到達目標	1. 研究テーマについて専門的に追求し、研究成果を口頭で発表するとともに論文にまとめる。 2. 卒業研究を通して、発想力、分析力、問題解決能力を身につける。 3. 実験・調査・ゼミ活動、発表を通してコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につける。 4. 事象について、多くの人に理解されるような客観的な見解をまとめ、記述ができる力を身につける。							
テキスト	資料を配布する。各自のテーマが決定してから、ゼミ等を通して参考書等を検索する。							
参考書								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 提出物：研究テーマに関するレポートと調査計画書 10% その他：研究に対する取組姿勢 40%、口頭発表 10%、 研究論文内容 40%					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	10						
その他	90							
履修上の 留意事項	卒業研究は各自がテーマを決定し、予備研究、本研究等を通して科学研究の方法を学びながら、研究論文完成へつなげてゆく。ゼミ発表、実験、調査、研究発表、論文作成について各自が積極的にとりくむ必要性から、研究内容によって個別対応になることがある。各自、授業外学習時間は必須である。進捗状況により内容が前後することがある。							
実務経験を 活かした教育内容								
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容					
	1	学習の主題	オリエンテーション					
		授業内容	卒業研究とは、研究テーマの検討について					
		事前・事後学習	研究テーマについて調べ検討する。事前・事後学習として1～2時間を要する					
	2	学習の主題	研究方法について					
		授業内容	研究方法の検討、文献検索について					
		事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する					
	3	学習の主題	研究計画について					
		授業内容	文献資料収集、研究計画作成について					
		事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する					
	4	学習の主題	研究計画検討①					
		授業内容	研究テーマに沿った研究計画を作成し、検討する					
		事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する					
	5	学習の主題	研究計画検討②					
		授業内容	研究テーマに沿った研究計画を作成、検討する					
		事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する					
	6	学習の主題	研究計画書確定					
		授業内容	研究テーマに沿った研究計画書を確定する					
事前・事後学習		事前・事後学習として1～2時間を要する						

回数 (担当)	項目	内容
7	学習の主題	研究活動①
	授業内容	研究計画に基づき、テーマに沿った予備調査・実験等の準備を含む研究活動等
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
8	学習の主題	研究活動②
	授業内容	テーマに沿った予備調査・実験等の準備を含む研究活動等
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
9	学習の主題	研究活動③
	授業内容	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
10	学習の主題	研究活動④
	授業内容	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
11	学習の主題	研究活動⑤
	授業内容	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
12	学習の主題	研究活動⑥
	授業内容	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
13	学習の主題	研究活動⑦
	授業内容	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
14	学習の主題	研究活動⑧
	授業内容	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
15	学習の主題	研究活動⑨
	授業内容	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理・分析等）
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
16	学習の主題	研究活動⑩
	授業内容	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理・分析等）、ゼミ内の中間報告準備
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
17	学習の主題	研究活動⑪
	授業内容	ゼミ内、研究中間報告
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
18	学習の主題	研究活動⑫
	授業内容	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理・分析等）
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
19	学習の主題	研究活動⑬
	授業内容	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理・分析等）
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
20	学習の主題	研究活動⑭
	授業内容	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理・分析等）
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
21	学習の主題	研究活動⑮
	授業内容	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理・分析等）
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する

学習の主題・  
授業内容

回数 (担当)	項目	内容
22	学習の主題	研究活動⑯
	授業内容	テーマに沿った研究活動(調査・実験、データ整理・分析等から結果・考察作成)
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
23	学習の主題	研究活動⑰
	授業内容	テーマに沿った研究活動(調査・実験、データ整理・分析等から結果・考察作成)
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
24	学習の主題	研究報告会準備①
	授業内容	発表スライドの作成
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
25	学習の主題	研究報告会準備②
	授業内容	発表スライドについて、ゼミ発表
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
26	学習の主題	研究報告会
	授業内容	研究成果報告会
	事前・事後学習	事前・事後学習として1～2時間を要する
27	学習の主題	卒業研究論文作成①
	授業内容	成果発表会等の結果をふまえ論文を作成する
	事前・事後学習	成果報告会における指摘事項の再確認と論文作成に3時間程度要する
28	学習の主題	卒業研究論文作成②
	授業内容	卒業研究論文の作成
	事前・事後学習	作成した内容の確認、今後の予定の確認と以降の作成に3時間程度要する
29	学習の主題	卒業研究論文作成③
	授業内容	卒業研究論文の作成
	事前・事後学習	引き続き内容確認、作成に3時間程度要する
30	学習の主題	卒業研究論文作成④
	授業内容	卒業研究論文の完成
	事前・事後学習	作成した内容について読み込み、確認し提出するため3時間程度要する

学習の主題・  
授業内容

2021年度以降入学生対象

授業科目	地域連携ケア論Ⅳ Theory of Community-based Care Ⅳ				担当教員	針金 佳代子、槌本 浩司、岡本 智子、 百々瀬 いづみ、小川 克子、他		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	○	○		○	◎	○
授業目的	「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」では、1～4年次を通じて、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに係る他職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して管理栄養士の専門性や役割理解を深めることを目的とする。そのうち、4年次の本科目では、地域連携ケア論Ⅰ～Ⅲで学んだ内容を活用しながら、提示された事例が、住み慣れた地域社会で自分らしく生活するために、どのような支援やシステムが必要なかを具体的に考え、解決策を提示する。その過程で、学生自身が目指す専門職の立場から、どのような役割を担うことができるかについて考察を深める。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で生活する人々の視点で、事例の生活上、および健康上の課題を明らかにできる。</li> <li>・事例の課題解決のために必要な支援や地域ケアシステム・ネットワークについて提言できる。</li> <li>・専門職としての多職種連携のあり方を通して、自己の課題を考察できる。</li> </ul>							
テキスト	開講時に提示する							
参考書	開講時に提示する							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準					
	試験		各回、授業内容に応じた提出物(40%)を予定している。また、目標の到達状況をレポート(60%)する。詳細は授業の中で説明する。					
	レポート	60						
	小テスト							
	提出物	40						
その他								
履修上の 留意事項	地域連携ケア論Ⅰ～Ⅲと一体の科目として学習すること。 各授業の前後に3～4時間の予習・復習を要する。							
実務経験を 活かした教育内容								
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容					
	1 (針金)	学習の主題	授業ガイダンス					
		授業内容	ガイダンス。「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅲ」の振り返り。地域における生活者の健康課題と健康生活を支える専門職の専門性と役割について					
		事前・事後学習	授業前にシラバスを読んでおくこと。授業後には、配付資料を確認し、内容を復習すること。					
	2 (槌本)	学習の主題	地域における生活者の支援Ⅰ					
		授業内容	地域における生活者の事例紹介					
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。					
	3 (岡本)	学習の主題	地域における生活者の支援Ⅱ					
		授業内容	地域における生活者の健康課題の発見についてⅠ					
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。					
	4 (百々瀬)	学習の主題	地域における生活者の支援Ⅲ					
		授業内容	地域における生活者の健康課題の発見についてⅡ					
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。					
	5 (小川)	学習の主題	地域における生活者の支援Ⅳ					
		授業内容	事例が抱える健康課題解決のための支援についてⅠ					
事前・事後学習		授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。						

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	6 (槌本)	学習の主題	地域における生活者の支援 V
		授業内容	事例が抱える健康課題解決のための支援についてII
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	7 (岡本)	学習の主題	地域における生活者の支援 VI
		授業内容	事例が抱える健康課題解決のために必要な支援やシステムについて
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	8 (針金)	学習の主題	地域における生活者の支援 VII
		授業内容	専門職としての多職種連携のあり方と自己の課題について
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。

2021 年度以降入学生対象

授業科目	給食経営管理論実習Ⅲ Field Practice in Nutrition and Food Service Management III				担当教員	山部 秀子、百々瀬 いつみ、渡辺 いつみ		
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年				選択・必修	選択必修		
授業形態	実習				単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎	○	○	◎
ねらい	給食の運営や関連の資材（設備、食材、人材、情報、資金等）を総合的に判断して、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメント能力を実践の場において養い、マーケティングの原理、給食の組織や運営管理等が実践の場でどのように活用されているのか等を実践的に学修し、学内で学んだ知識と技術の統合を図る。また施設利用者の特徴を考慮したうえで喫食状況の把握、栄養・食事管理、食材管理、作業管理の分析、衛生管理、衛生教育、経営分析等を通して課題を発見し、問題解決のための検討などについて実践の場で学修する。さらに他部署・部門、多職種との連携をはかるための方法や管理栄養士の役割を学修する。							
実習目標	1. 栄養ケア・マネジメントの基礎的知識、技術について説明できる。 2. 栄養管理において重要な課題をあげ、その解決のため計画を立案できる。 3. 多職種連携における管理栄養士の役割を説明できる。							
実習内容	実習ノートを配布する。必要に応じて資料を配布する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。					
	レポート		提出物：20点（実習の目的、自主課題、施設課題）					
	小テスト		その他：80点（配点は以下の通り）					
	提出物	20%	・施設指導者の評価 30点 ・実習ノートの内容 30点					
その他	80%	・実習報告書実習の目的、課題の達成度について（発表含む）20点						
履修上の留意事項	臨地実習で身につけた知識や技術をさらに定着させ、より深く管理栄養士の業務を理解するために、積極的に取り組むこと。高齢者施設の概要や食事などについて、今まで学修したことを復習、整理しておくこと。利用者の特徴や対応等についても十分事前学習して臨むこと。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨地実習において学修する内容や準備について具体的に指導する。また臨地実習では実務を行っている施設職員や管理栄養士の実践的な指導により、管理栄養士としての職務や役割等について実習を通して実践的に学ぶことが出来る。							
実習方法	実習内容についてはオリエンテーションで説明する。  1. オリエンテーション 給食経営管理論実習Ⅲ臨地実習について 事前準備 実習施設指導者との事前打ち合わせ 実習施設管内概要の把握 課題（自主課題または実習施設からの提示課題）の準備  2. 実習 実習施設（小学校等）における実習（45時間）  3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会での発表							
実習施設	札幌市内の小学校等の給食提供施設							

2021年度以降入学生対象

授業科目	公衆栄養学実習 II Public Health Nutrition Practicum II				担当教員	槌本 浩司			
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年				選択・必修	選択必修			
授業形態	実習				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				◎		○	○	◎	
ねらい	保健所や保健センター等において、地域保健活動における各所の役割や機能、地域住民を対象とした栄養管理に関わる管理栄養士の業務を実践的に学修する。国の健康増進施策等が地方公共団体でどのように計画、施策化、実践されているのかを学修する。また、住民への栄養・食生活の改善に関する事業を実践の場で体験し、様々な栄養関連サービスを必要とする人々に気づき、地域診断の結果から地域の優先的な健康・栄養課題を明確にし、課題解決にむけたプログラムの作成・実施・評価などについて学修し、実践活動の場で今まで修得した知識および技術の統合を図る。								
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生行政を理解している。</li> <li>2. 住民の健康増進事業を通して栄養改善業務および栄養行政の概要を把握し説明できる。</li> <li>3. 地域保健活動・健康づくり対策を理解している。</li> <li>4. 地域保健活動・健康づくり対策が多職種連携により行われていることを理解している。</li> <li>5. 地域栄養計画の立案、活動の進め方、評価、健康増進事業、地区組織の育成を体得している。</li> </ol>								
実習内容	保健所または保健センターにおける実習								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準						
	試験	100	目標の到達状況を下記の方法で評価する。 実習先の評価 40%、 実習記録 20%、 報告書（成果発表を含む）40%						
	レポート								
	小テスト								
	提出物								
その他									
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。</li> <li>2. 実習の準備・事後の整理は協力して行うこと。</li> <li>3. 実習保健所管内および保健センターの概要を把握しておくこと。</li> <li>4. 自身の実習課題を明確化し、到達目標を立て、効果的な実習となるよう臨むこと。</li> <li>5. 事前学習ノートの整理、報告書の作成は速やかに行い提出すること。</li> </ol>								
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域における健康増進施策など、公衆栄養活動の実践に必要な知識について理解しやすいように授業を行います。								
実習方法	実習内容についてはオリエンテーションで説明します。  <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 公衆栄養学臨地実習について 事前準備 実習施設指導者との事前打ち合わせ 実習施設管内概要の把握 課題（自主課題または実習施設からの提示課題）の準備</li> <li>2. 実習 実習施設（保健所、保健センター）における実習（45時間）</li> <li>3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会での発表</li> </ol>								
実習施設	北海道保健所、札幌保健所・保健センター								

2021 年度以降入学生対象

授業科目	臨床栄養学実習Ⅳ Field Practice in Clinical Nutrition Ⅳ		担当教員	岡本 智子、氏家 志乃				
対象学科・年次・学期	栄養学科・4 年次・通年		選択・必修	必修				
授業形態	実習		単位数	2 単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○			◎	○		◎	○
ねらい	傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた栄養状態の評価・判定を行い適切な栄養管理について、実践の場で学修する。施設組織内の栄養部門の概要や位置づけ、疾患やライフステージにより栄養管理が異なること、チーム医療・多職種連携の連携を経験し、地域医療や在宅医療等についても学修する。学内で修得した知識や技術を臨床の場で統合して、課題発見・気づき、どのような対応が必要なのかなどの課題解決を通して、臨床における管理栄養士としての様々な活動を学び、卒業後臨床の現場において実践・応用できる能力を身につける。							
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実践活動の場において、専門職業人としての職業倫理、社会的使命について説明できる。</li> <li>2. 実践活動の場において、課題発見・問題解決への取り組みを行うことができる。</li> <li>3. 栄養管理業務において、適切なマネジメントを行うための専門的な知識や技術について説明できる。</li> <li>4. チーム医療における管理栄養士の役割について説明できる。</li> <li>5. 地域医療や在宅医療の概要について説明できる。</li> </ol>							
実習内容								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 提出物：実習ノート 20% その他：実習指導施設指導者の評価 40%、発表 40%					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	20						
その他	80							
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。</li> <li>2. オリエンテーションは重要である、施設等の特徴を学修しておくこと。</li> <li>3. 実習課題については実習施設指導者に相談、検討すること。</li> <li>4. 実習記録の記入・整理・報告は速やかに行い、提出すること。</li> </ol>							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から臨床現場での実習生指導時の経験を織り交ぜながら、充実した臨地実習ができるように必要とされる知識、技術、礼儀、コミュニケーション力について指導します。							
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 臨床栄養学実習について 事前準備 臨床栄養学実習施設との事前打ち合わせの概要・その他 実習における留意事項</li> <li>2. 実習 実習施設（医療施設）における実習（90 時間）</li> <li>3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会の発表</li> </ol>							
実習施設	札幌市内医療施設等							